



四郷小だより

発行人 北岡 美代子

学力向上の取組について

～令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて～

4月に6年生を対象に「令和5年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。本年度は、国語・算数の学力・学習状況調査と児童生徒質問紙調査がありました。この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証して指導の充実や授業改善に役立てることにあります。本校におきましても、全教員で結果を分析しました。今後、分析結果を踏まえた学力向上の取組をすすめてまいります。調査結果の個人票については、担任から6年生児童にお渡しします。正答数や平均正答率等にこだわり一喜一憂するのではなく、自分の強みや弱みを知り、今後の学習に活かしてほしいと思います。



児童生徒質問紙調査の結果から

《よい傾向の割合が高かった項目》

- 朝食を毎日食べる。毎日同じくらいの時刻に寝ている。毎日同じくらいの時刻に起きる。
- 将来の夢や目標をもっている。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。
- 友だち関係に満足している。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- 国語の勉強が好き。算数の勉強が好き。英語の勉強が好き。

朝食については、100%の児童が「食べている」と回答しています。朝、家を出るのが早い子もいますが、お家の方がしっかりと朝ご飯を食べさせて送り出してくださっているおかげです。朝ご飯を食べないと、午前中、頭がぼんやりしたり、元気が出なかったりすることがあります。朝ご飯は脳と体がしっかり目覚めるための大事なスイッチです。引き続き、よろしくお願ひします。

「将来の夢や目標をもっている」という項目に「当てはまる」と回答した子どもは72.7%で、県59.7、全国60.8に比べ高い割合です。また、「友だち関係に満足している」という項目で肯定的な回答をした子は100%でした。国語や算数、英語の勉強に対して「好き」と回答する子どもも多かったです。

地域の行事に参加することは、地域の方々とのつながりを築いたり、地域の伝統や文化を学んだりすることができるなど、貴重な経験となります。学校でも地域の方々にご協力をいただき、つながりを大切にしたい学びを進めていきたいと思ひます。

《課題であると思われる項目》

- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっているか。
- 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれるか。
- 家におよそどれくらいの本があるか。学校の授業時間以外にどれくらい読書をするか。
- 国語の授業は大切だと思うか。
- 解答時間は十分であったか。

子どもたちが主体的、意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善に取り組みます。子どもたちの興味・関心を踏まえてきめ細かく指導や支援をしたり、子どもたちのつまずきや悩みなどの理解に努めたりしていく必要性を感じています。今年度、5・6年生の算数では、複数の教員が指導にあたっています。1学期は2人の教員による一斉指導を行っていましたが、今後、学習する単元によっては、クラスを2つに分けて少人数での指導を行ったり、子ども一人ひとりにできるだけ合わせた指導を行ったりしていくことも検討しています。具体的にはまた、担任から連絡させていただきます。

授業時間以外の読書時間については、平日10分以上読書をしている割合が県・全国よりも低い傾向にありました。学校図書館教育の充実、ボランティアさんによるお話会や、絵本作家 tupera tupera さんを招いてのお話会の開催等により、子どもたちに読書の楽しみをもっと知ってほしいと思っています。子どもたちのタブレットには電子書籍も入っていますので、ぜひ活用してほしいです。国語の調査では「解答時間が十分でなかった」と感じている子どもが多かったです。全国学力・学習状況調査は、普段のテストよりも問題数が多かったので、大変だったと思います。今後、子どもたちに「読む力」をさらにつけていく必要性を感じました。

国語・算数の調査結果より

本校6年生の平均正答数は、国語・算数とも県・全国よりやや低い結果（国語は県・全国と比べ-0.8、算数は県と比べ-0.3、全国と比べ-0.4）でした。漢字や送り仮名を正しく使えるかをみる問題では、県・全国の平均よりも上回り、特に送り仮名についての正答率は100%でした。けれども、**文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題**や、**目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題**において課題がみられました。学年に応じて、文章を読み取る力、要約する力をつけていく必要があることが分かりました。

算数においては、台形や正三角形の性質を理解しているか、分配法則を用いて計算をしたりすることができるかなどの【知識や技能】を問う問題では、県・全国の平均正答率より上回っています。課題がみられたのは、伴って変わる二つの数量が比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるか問う問題や、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、**その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問う問題**でした。今後の授業の中で、「なぜそう考えたか」を言葉や数を用いて説明したり、まとめたりする学習を充実させていく必要を感じています。

全教員の共通理解のもと、今後の指導に取り組んでいきたいと考えています。お力添えをよろしく申し上げます。

【全国学力・学習状況調査の問題や解答等は、国立教育政策研究所のHPにありますのでご覧ください。】